

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 医生丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

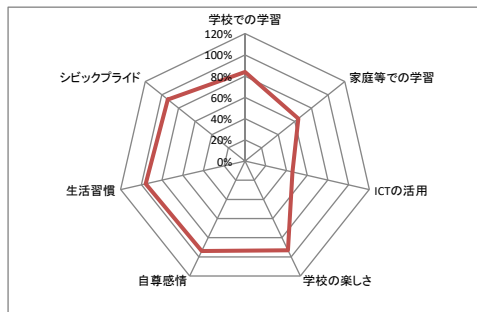
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	内容別でみると、「知識及び技能」における「情報の扱い方に関する事項」の正答率が高い。一方で、目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し、明確にする問題に対する正答率を上げていくことが今後の課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかを見る問題 ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全ての領域で全国平均を上回っている。特に、図形領域での正答率が優位に上回っている。さらに、データの活用領域でも正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さを求める問題 ・円グラフを読み取って、条件に合ったものを選択する問題	
	努力が必要な問題	・求める数を□としたときに、問題場面を正しく表している式を選ぶ問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢や目標を持っているか」の問いに対して、約86%の児童が肯定的に回答している。児童の将来への前向きな意識がうかがわれる。 ・「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないかと考えているか」の問いに対して、約80%の児童が肯定的な回答をしている。このことから、学習したことで自分の生活のつながりを意識しながら授業に臨んでいることがうかがわれる。 ・授業の中で、ICT機器を積極的に活用していると回答した児童の割合が低かった。今後、学習活動にICT活用がもたらす効果を意識した取組が必要と考える。 ・学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1時間以上勉強していると回答した児童の割合が低かった。家庭学習の習慣付けが課題であると考える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて情報を整理分析し、伝え合う内容を検討したり、自分の考えや意見をまとめたりする学習活動を取り入れる。 ・いずれの教科においても、ICTを積極的に活用して、児童相互が対話的に学び合ったり、児童が自分の考えを整理分析する活動を積極的に取り入れる。 ・タブレットドリル等を活用し、思考力・判断力・表現力を高める下支えとなる基礎的な学力の定着の機会を増やす。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「ほけんだより」等を活用し、規則正しい生活習慣の大切さを家庭に伝えるとともに、学級指導や保健指導を通して児童への啓発を図る。 ・家庭で、自主的に学習に取り組むための宿題の提示の方法や、「自主学習ノート」の推進を図る。
--